

## 「より良く生きるために学ぶ」～座右の銘をもとう～ 山崎寛雄

私の座右の銘は、「正しい生き方なくして、真の成功はありえない」です。『七つの習慣』という本でこの言葉に出会いました。人生の基準に「成功」や「幸福」より先に「正しい生き方」を置く、というふうに私は解釈しています。

この言葉に出会ってから、私の生き方に芯が生まれました。それまで私は、自分が「幸福」になるにはどうすればよいかを基準に生きていた気がします。しかし、この言葉に出会ってから、自分は人として正しく生きているかをまず考えるようになりました。人として「正しく生きる」とは、嘘をつかず、誠実に生きること。ものごとを正しく見ること。そして、自分を支えてくれた人、支えてくれている人たちへの感謝の念を忘れないことです。これらのことだけでも実行することは簡単ではありません。人はそれぞれ自分のメガネを通してしか世界を見ることはできません。思い込みや偏見が眼鏡を曇らせ、正しく見ることが妨げ、欲が嘘をつかせ、約束を破らせるかもしれません。驕りが感謝を忘れさせるかもしれません。

「正しい生き方」は日々学び、努力することで近づくことができます。反対に幸福や成功といったものは、自分の努力だけで必ず得られるという保証はありません。自分が努力してできることに集中した方が、得られるかどうかわからないものに振り回されて生きるより、ずっと楽に生きられる。そう思うようになってから、私は幸せかどうかより先に、正しく生きているかどうかを考えるようにしています。

人は幸福や成功を追い求めずにはいられない生き物です。人生 100 年時代。折り返し地点を回ったばかりの私はまだ、旅もしたい、おいしいものも食べたい…。でも、欲をすべて満たすことはきっとできないでしょう。欲は生きるエンジンです。でもハンドルにはならない。いや、欲にハンドルを握らせたらきっと事故を起こします。人は欲深い存在ですから、ほおっておくと心に私利私欲という雑草がすぐ生えます。心という庭は、常に手入れをしなければ雑草が生えるのです。だから、常に正しく見るために学び、雑草が生えないように人への感謝を忘れず、自分ではない誰かの幸福のためにできることをする。そんな人生を歩みたい。だから私は座右にいつもこの言葉を置こうと思っています。

これを読んできた皆さん、皆さんはこの世に誰かを幸福にするために生まれ、生かされているのです。それぞれの与えられた能力と個性を磨き、それを発揮するために、学んでほしいと私は思います。

問1 あなたの「座右の銘」はありますか？（ある・ない）

ある人は、教えてください。できれば、その理由も。

問2 筆者（校長）の考え方を読んで、あなたはどのような考えを

もちましたか。100字程度で書いてみてください。